

全校の皆さん、おはようございます。

暑く感じる日も増え、急に夏らしい気候となりました。また、先日、九州南部地方が梅雨入りしたとニュースがありました。これは例年になく早い梅雨入りだそうで、去年に比べて二十三日も早いことだそうです。「長野県の夏は、昔はクーラーなんて必要なかったのに」と言う人もありますが、日本以外でも、このような異常気象が発生しているのは事実のようです。

地球の気候などを研究対象とする地質学では、地球のその時代にどのような動物や植物が生息し地球環境を構成しているかということによって時代を区分しています。その地質学の目線で、今私たちが生きているこの現代は「人新世（ひとしんせい）」の時代と呼ばれています。

地球上で人類の持つ影響力が非常に大きなものとなり、人類の活動が地球環境や生態系に大きく関わっているこの現代を「人新世」と呼んだり、「人類の時代」と呼んだりします。さらに、経済学者の斎藤幸平さんは「人類が地球を破壊しつつくす時代」と指摘しています。

地球を自分たちの思い通りにしたい、自分たちにとって都合の悪いものは排除したい、人類がそういった欲望で地球を覆いつくして、その結果として、自然環境を破壊しているのかもしれない。日本でも、近年、このような異常気象をはじめ、山火事や土砂崩れなどの災害が増えているようにも感じます。人類が自分たちの都合で地球を振り回して、本来のバランスを乱してしまっているのかもしれない。

これまで人類は「発展」や「成長」という言葉を信じて、それが正しいこととし、前に進み続けてきました。しかし、「人新世」と呼ばれる現代、そのこと自体を立ち止まって反省する時が来ているのではないのでしょうか。

そのことを早くから見抜いてか、仏教では、人間の欲望に際限がなく、どこまで行っても満足することがなく、いずれ身を滅ぼしてしまう、そのような迷いの生き方を「餓鬼」と表現し、私たちに教えています。

「諦める」というのは、仏教の言葉で「真実を見極める」という意味です。「夏は暑いものである」と諦めるのか、それとも自分たちの都合を優先して自然環境までも変えてしまおうとするのか、「人新世」という言葉から、そのようなことを問いかけられているように思います。